

むくのきだより 6月号



令和6年5月31日 港区立赤羽幼稚園 園長 中村 美奈子

多様な人との関わりの中で育つ子供たち

園長 中村 美奈子

毎朝の赤羽幼稚園のピロティで交わされる「おはようございます！」の挨拶に、「Good morning！」が加わりました。5月から、ネイティブティーチャーが週3日、派遣されています。赤羽幼稚園では、月曜日はスモド先生、火・木曜日はデレク先生が、子供たちと朝から一緒に過ごします。新しい先生の登場に、初めは緊張していた子供たちも、「Good morning！」と笑顔で返すようになってきました。

港区では、幼児期から、身近な文化や伝統に親しんだり、言葉などの異なる文化に触れる活動に親しんだりする価値ある体験を通して、社会とのつながりの意識や国際理解の意識を養うために、今年度より港区立幼稚園にネイティブティーチャーの派遣を始めました。赤羽幼稚園の子供たちは、これまで担任と一緒に歌ったり、踊ったり、遊んだりしているのと同様に、ネイティブティーチャーと歌ったり、踊ったり、遊んだりすることを楽しんでいきます。子供たちは、自然に音の響きやリズムにのって、にこにこ笑顔で体を動かします。例えば、「バスにのって」の音楽に合わせて、「バスにのってゆられてる ゴー！ゴー！」と歌いながら、「そろそろみぎにまがります 3, 2, 1, ウアー」のところで担任や友達と一緒に倒れて大笑い。「Head Shoulders Knees & Toes」の音楽では、歌いながら体の部分を手で押さえ、スピードアップするたびに、思わず友達やネイティブティーチャーと顔を見合わせ笑っています。共に楽しむ関係をつくる中で、「相手に伝えたい思い」や「伝えるための表現」が育つと考えます。これらはコミュニケーションの基礎であり、小学校の学びへとつながっていく大切な力です。子供たちは、ネイティブティーチャーと朝から帰りまで一緒に過ごすことで、自然に生活の中で英語を受け入れ、自分からも関わりをもととする姿も見られます。6月17日には、オーストラリアの幼稚園とオンラインで交流する予定です。

ネイティブティーチャーに限らず、多様な人と関わることは、子供の成長に必要なだと考えています。赤羽幼稚園では、赤羽小学校はもちろん、三田アカデミーの学校(三田中学校・御田小学校・芝小学校)や近隣保育園との交流を、年間を通してしていきます。また、地域の方々のご協力を得て、和太鼓などの日本の伝統文化に触れる体験もします。6月11日に開催する「赤羽こどもまつり」では、三田地区委員会の皆様に出店のご協力をいただくことを、毎年、子供たちは楽しみにしています。多くの人と関わり、一人一人の子供が自分の世界や可能性を広げていってほしいと願っています。

*三田地区委員会は、地域の子供は「地域で育てる」という考えのもと、港区と連携し、三田中学校の学区の町会、町会内の施設、三田中学校・芝小学校・御田小学校・赤羽小学校・赤羽幼稚園の三田アカデミーとそれを支える委員で成り立っている、ポジティブボランティアの委員会です(港区青少年対策三田地区委員会広報誌より)。

ネイティブティーチャー
と遊ぶ子供たち

